



## 『安政聞録』翻訳文（その10）

原作・古田 詠処 養源寺蔵

蔵・軒・土塀・石垣のそばを避ける。これは多少  
 平時の心得にもなるのではじめに記しておいた  
 のは、人々は自然と心得ておくべきだが、地震が  
 起こった時は周章狼狽するものである。日ごろか  
 ら、腹を据えておかねばならない。

津波がおこった時は、橋を渡って逃げてはいけ  
 ない。川は早く潮が満ちるから。

津波の時は真っ先にお宮へ行き、あとのことは  
 考えるな。

津波だと伝える人がでたら、それに疑いをもた  
 ず、真っ先に逃げ仕度をせよ。

大災害にならぬことを心得ておけ。一寸先はま  
 ったくわからない。強情を述べて逃げずにいて津  
 波に流されたら、波の中で後悔することになる。  
 しっかりしているようにみえて危ないのが荒く  
 れ武者と大地に驕る金持ちだ。酒・賭博・女くる  
 いと、飯と汁味のよいのに心ゆるすな。

## 七 回

津波は静まったといっても、地震はおさまらず、  
 大小の揺れの数もわからない程であった。さて無  
 事であった家も、まずは破損部の掃除や、建て直  
 しに取り掛かったといっても、中々、容易にはす  
 すまない。足の踏み場もなく家に居られない者は、  
 宮の高出場や、明王院、東薬師堂あたりへ救い小  
 屋を建て仮住まいさせ、大家すじ栖原・湯浅・広  
 から、救い米を暮らせる程度に応じて出した。

## 目 録

右の救い米は日々粥にし、観音堂辺にての人々  
 へ、同年12月晦日まで施し、その後は米のまま  
 施した。頃は12月上旬にうつり、だんだん家の  
 建て直しも、少しずつ壁などできれば、12月1  
 3日吉日であったので、我が家中・新しい家やそ  
 の他ほとんどが村に帰った。しかし、畳も充分に  
 は敷けず、ようやく海水を出すまでを、表替えし、  
 敷く程度しかできなかった。他は推して知るべし。  
 女たちはこの日が最初の帰村だったので、四方の  
 屋根を見て、薬師天せしも道理であった。

(つづく)



こんにちは！ 「こども梧陵ガイドプロジェク  
 トチーム」の関西大学近藤ゼミ、龍谷大学石原ゼ  
 ミです！ 私たちは10月19日に行われた「第17  
 回稲むらの火祭り」に参加しました。町民の方々  
 による催しのあと、こども梧陵ガイドで共に活動  
 している広小学校6年生が『稲むらの火』の歌を  
 披露してくれました。この曲の作者である関島英  
 樹さんと一緒に、大きな声で元気よく歌う姿は、  
 かっこよかつ  
 たです！

メインイベ  
 ントの松明行  
 列では、500名  
 を超える参加  
 者の皆さんと  
 松明を持ち、  
 役場から津波



避難場所である広八幡神社までの約 1.7 キロを  
 歩きました。火祭りは、避難経路の確認や防災に  
 関して話し合う場になっていると感じました。

## こども梧陵ガイドの練習を行いました！

10月28日には、稲むらの火の館で、広小児童  
 とこども梧陵ガイドの最終確認を行いました。  
 こども梧陵ガイドとは、稲むらの火の館で、小学  
 生が来館者にクイズでガイドする取り組みです。  
 クイズは小学生のアイデアをもとに、大学生が  
 一緒に作成したオリジナルで、津波のことや梧陵  
 さんのことを学べる内容になっています。ガイド  
 の練習後、すぐに課題をチェック。「はっきり、

大きな声で話  
 す！」、「発音がし  
 にくい所があっ  
 た。」などの意見  
 が出ました。本番  
 は11月16日と17  
 日です。6年生の  
 みんな、一緒に頑  
 張ろうね！！



